

来週の市場とレート予想

	12/18(月)	12/19(火)	12/20(水)	12/21(木)	12/22(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	△ 1,400	△ 4,000	△ 4,000	△ 5,000	△ 5,000
財政他	△ 7,300	+ 4,000	+ 20,000	△ 8,000	+ 4,000
資金需給	△ 8,700	ト ン	+ 16,000	△ 13,000	△ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5年・10年・20年・30年) 国債償還(5年・10年)	財投貸付回収	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,500 CP等買入 △ 500 国債補完供給 + 900				被災地支援 △100
オペスタート	共通担保(全店) + 4,100 ETF買入 + 400	国債買入 + 4,000 国庫短期証券 + 2,500 CP等買入 + 4,500			
(日本)	短観・企業物価見通し(12月調査、日銀) 貿易統計(11月、財務省)		日銀金融政策決定会合(1日目) 資金循環統計(速報、7-9月期、日銀) 全産業活動指数(10月、経産省)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁の会見	営業毎旬報告(12月20日現在) 保有する国債の銘柄別残高 国庫短期証券の銘柄別買入高
(海外)	欧 ユーロ圏CPI(11月、改定値)	米 住宅着工件数(11月) 米 経常収支(7-9月)	米 中古住宅販売件数(11月)	米 GDP(7-9月、確定値) 米 新規失業保険申請件数(16日終了週) 米 景気先行指標総合指数(11月) 米 FHFA住宅価格指数(10月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(12月)	米 個人消費支出・所得(11月) 米 耐久財受注(11月) 米 新築住宅販売件数(11月) 米 ミガン大学消費者マインド指数(12月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.000
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.010
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、358兆5,900億円から始まり、その後、短国・国債買入を主因に360兆円台となり、週末15日には年金定時払いを主因に368兆1,500億円まで増加した。  
無担保コールON加重平均金利は週初△0.036%から始まった。その後、同金利は上昇基調をたどり、積み最終日前日となる14日には、△0.026%まで上昇した。また、積最終日となる15日の同金利は、△0.037%となった。  
ターム物は1W~2W物(年内物)を中心に、主に△0.04%~△0.03%で取引が見られた。  
日銀は11日、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率について、12月から2月の積み期間は21.5%とすると発表した(9月~11月の積み期間と同様)。海外では13日にFOMCが開催され、政策金利を0.25%引き上げ、年1.25~1.50%にすることを決めた。また、経済・金利見通しが発表され、来年の金利引き上げペースは今年と同じ3回との見通しを維持した。

<CP>

今週の入札発行総額は約8,800億円で、週間償還額の約7,200億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。電気機器やその他金融等、多くの企業からまとまった金額の発行があり、週間を通じ活況なマーケットとなった。週末の発行残高は、前週比2,054億円の増加で17兆4,319億円であった。発行レートは、ほぼ横這い推移で浅いマイナスから0%近辺での出合い。14日オファアのCP等買入オペ(4,500億円、12/19スタート)は、オファア金額が当初の予定額から増額された影響からか、按分レート△0.006%、平均落札レート△0.002%と前回比で低下した。  
来週の償還額は、1兆600億円程度となっている。5・10日発行もあり、発行が増加し、引き続き活況なマーケットとなると思われる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き浅いマイナスから0%近辺での出合いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移を予想。

<TDB>

14日に行われた国庫短期証券3M第727回債の入札は、最高落札レート△0.1786%(前回債△0.1414%)、平均落札レート△0.1954%(同△0.1522%)と前回からマイナス幅が拡大した。週末のセカンダリー市場は閑散とした展開で、新発3M物は△0.175%程度の気配となっている。来週は18日に1Y、20日に3Mの入札が実施される予定。

<レポ>

足許GCは週初△0.05%台から始まり、14日受渡しのT/Nでは△0.03%台の出合いが一部見られた。以降は低下基調となり、積み最終日である15日受渡しは△0.07%近辺。TDB3Mの発行日である18日受渡しもレート上昇には至らず、△0.09%~△0.095%の出合い。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファアされ、△0.11%~△0.12%に低下し越週した。  
SC取引では、週を通して10年348回債と5年133回債の引合いが多かった。共に13日の国債買入オペ後△0.40%台半ば~△0.50%近辺の出合いが見られ、10年348回債については週末まで△0.50%台の取引が続いた。その他2年381・382・383回債、5年131・132回債、10年336・337・341・342・343・344・345・346・347回債、20年161・162回債、30年55・56回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。